**みんなでエコッペ！～やってみよう「エコ活」～**

問い合わせ　環境保全課環境保全担当　電話23-2103

**～Vol.14　「食品ロスを減らそう！」～**

「食品ロス」とは、まだ食べることができるのに捨てられてしまう食品のことです。

日本では年間472万トンもの食品ロスがあり、1人当たりに換算すると、毎日茶わん1杯分を捨てていることになります。食べ物を捨てると、食品を焼却する際に大量の二酸化炭素が排出され、環境へ影響を及ぼします。

そんな食品ロスを減らすために私たちができることは、食べ物を残さず食べること、食材を必要な分だけ買うこと、食品を使い切ることなどがあります。

また、「フードドライブ」といった、家庭で余っている食べ物を地域の福祉団体や施設へ寄付する活動もあります。市内のスーパーマーケットなどでも食品を受け入れています。

日々の小さな心がけで食品ロスを減らし、「もったいない」を減らしていきましょう！

**オオサキワンダーミュージアム　人と大自然の青空博物館**

**VOL.51　「食べて・感じる大崎耕土スタンプラリー」を開催します！**

問い合わせ　農政企画課世界農業遺産未来戦略室　電話23-2281

大崎地域世界農業遺産推進協議会では、10月1日（火曜日）から11月30日（土曜日）まで「食べて・感じる大崎耕土スタンプラリー」を開催します。

大崎地域で生産・製造された農産物や農産加工品などを使用した飲食店での飲食や、土産店などでの買い物を楽しみながら、大崎地域1市4町（大崎市、色麻町、加美町、涌谷町、美里町）を巡るイベントです。

対象店舗に設置してある二次元コードを読み取り、スタンプを5個集めると、抽選で10人に5,000円相当の地場産品が当たります。

詳しくは、大崎地域世界農業遺産推進協議会のウェブサイトまたはインスタグラムで確認してください。

**市長コラム　天地人**

**祝・世界かんがい施設遺産　登録決定！**

宝の都（くに）・大崎には世界から認められた宝がたくさんあります。

市長就任以来、国際舞台での認証式に三度臨む栄誉に浴しました。

最初は、合併直後の2008年（平成20年）11月に韓国で開催されたラムサール条約締約国会議で、「化女沼」が合併前の「蕪栗沼・周辺水田」に次いでラムサール条約湿地に登録されたときです。

二度目は2018年（平成30年）4月にイタリアのローマで開催された国際連合食糧農業機関（FAO）本部での世界農業遺産認証式で、「大崎耕土」が認定されたときです。

そして今回、9月3日にオーストラリアのシドニーで開催された第75回国際かんがい排水委員会（ICID）国際執行理事会において、鳴子温泉地域中山平にある「」が世界かんがい施設遺産に認定・登録されて受賞式に臨んでまいりました。本県・本市では岩出山の「内川」に次いで2例目です。

「南原穴堰」は約380年前に3年をかけ、手彫りで岩を削り、完成させた約2キロメートルのと開水路です。

かんがい事業とは、人工的に水を引き、人間が生きるための農業や、生活を支えるための命とをつなぐ水管理事業です。

アフガニスタンで銃弾にれた中村医師が、貧困や病気、難民問題を解決するために手掛けていた事業も、かんがい施設建設事業でした。

国際機関から認められた大崎の宝に誇りを持ち、次なる宝探し、宝磨きのステップにしていきましょう‼